

平成18年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：赤かび病（大麦）（ 1 ）

平成18年4月21日
鳥取県病害虫防除所

1 今後の予想

本病は出穂期～乳熟期の曇雨天及び高温(20～27℃)で発生が助長されるが、本年の大麦の生育は遅く、出穂期～乳熟期が高温に遭遇しやすいため注意が必要である。

また、気象予報によると向こう1ヶ月の気温は平年並みか低いが、降水量は平年並みか多いと予想されている。

とくに、六条大麦（シュンライ）は本病に弱く、二条大麦に比べて出穂が遅いため注意が必要である。

2 防除上注意すべき事項

(1) 二条大麦は穂揃期に防除を行い、降雨が多く気温が高い等、発生しやすい条件となった場合には1回目の防除の7～10日後に2回目の防除を行う。

六条大麦は本病が発生しやすいことから、穂揃期とその7～10日後の2回防除を行う。

(2) 農業試験場内における出穂期は、二条大麦（アサカゴールド：11月2日播種）で前年より10日程度遅い4月17日であった。六条大麦（シュンライ：11月2日播種）は前年より7日程度遅い4月22日頃が出穂期になると見込まれている。

(3) 赤かび病の防除薬剤は下表を参考とする。なお、チオファネートメチル剤（トップジンM水和剤、同粉剤等）の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

表 防除薬剤

| 薬剤名 | 作物名 | 希釈倍数及び使用量 (使用液量/10a) | 使用時期 | 本剤の使用回数 |
|------------|---------------|------------------------------|-----------------------|----------------------|
| コロナフロアブル | 麦類 | 400倍 | | 5回以内 |
| ストロビーフロアブル | 麦類 | 2,000～3,000倍 (60～150リットル) | 収穫14日前まで | 3回以内 |
| スミトップM粉剤 | 麦類 (小麦を除く) | 4kg/10a | 出穂期～穂揃期 但し収穫30日前まで | 1回 |
| チルト乳剤2.5 | 大麦 | 1,000～2,000倍 (60～150リットル) | 収穫21日前まで | 1回 |
| | (無人ヘリによる散布) | 8倍 (800ml) | 収穫21日前まで | 1回 |
| トップジンM水和剤 | 麦類 (小麦を除く) | 1,000～1,500倍 | 収穫30日前まで | 3回以内 (出穂期以降は1回以内) |
| トップジンM粉剤 | 麦類 (小麦を除く) | 4kg/10a | 収穫30日前まで | 3回以内 (出穂期以降は1回以内) |
| トリフミン水和剤 | 麦類 | 1,000～2,000倍 | 収穫14日前まで | 3回以内 |